

基礎分野

(外国語) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	乱獅子 直由美				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	医療現場のグローバル化が進む中、医学英語の必要性を踏まえ、前期、後期を通して医学と医療の基本である人体の主要な組織の構造と機能を中心に記述された文献で医療英語特有の語彙や表現に慣れ、読解力の養成と、医学英単語並びに英文解釈を学習する。また、鍼灸及びマッサージ施術時の実践フレーズ(シンプルな英語での)を用いて、基礎的コミュニケーション能力の養成を目的とする。 いずれも筆記中心の授業内容とし、各章の復習問題を通して簡単な英訳、英作文等の習熟も目指す。				
教科書	教科書は指定しない。読解、実践フレーズ共にプリント教材を配布。				

具体的な到達目標	
目標 1	医学英単語の正しい発音、意味、構成の習得。
目標 2	人体における各器官、組織の構造と機能の概要の習得。
目標 3	基本的な構文、文法、イディオム(熟語)を理解し、読解力を養う。
目標 4	日常の施術前後、施術中で想定されるシチュエーションに対しての実践フレーズの習熟
目標 5	「読む」「書く」「話す」「聞く」の 4 技能を身につけ、英語コミュニケーション能力を高める。
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	9 0 %		9 0 %		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	1 0 %	算出方法 全出席を 10 としての出席率	1 0 %	算出方法 全出席を 10 としての出席率	
その他	算出方法		算出方法		
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の実務経験			

実務経験
をいかした
教育内容

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション(授業概要、進め方) 自己紹介(英語) Phonetic Sign(発音記号)学習 音素の分類、母音、子音の発音練習	
2		The Human Body(人体) 体の各部名称及び新出単語の発音と意味 前書き部分 施術時の実践フレーズ 1, 2	英単語調べと本文和訳
3		The Human Body(人体) 身体は何から構成されているか? 細胞について 施術時の実践フレーズ 3, 4	英単語調べと本文和訳
4		The Human Body(人体) 組織、器官 体系について 施術時の実践フレーズ 5, 6	英単語調べと本文和訳
5		The Human Body(人体) 復習問題 The Digestive System(消化器系) 消化器官の名称及び新出単語の発音と意味 施術時の実践フレーズ 7, 8	英単語調べ
6		The Digestive System(消化器系) 歯と唾液腺の形状と働き 施術時の実践フレーズ 9, 10	英単語調べと本文和訳
7		The Digestive System(消化器系) 食道と胃の形状と働き 施術時の実践フレーズ 11, 12	英単語調べと本文和訳
8		The Digestive System(消化器系) 小腸の形状と働き 施術時の実践フレーズ 13, 14	英単語調べと本文和訳
9		The Digestive System(消化器系) 大腸の形状と働き と 復習問題	英単語調べと本文和訳
10		The Respiratory System(呼吸器系) 呼吸器官の名称及び新出単語の発音と意味 The Respiratory System(呼吸器系) 肺の形状、位置等 施術時の実践フレーズ 15	英単語調べと本文和訳
11		The Respiratory System(呼吸器系) 肺の内部の構造、 呼吸と吸息に関して 施術時の実践フレーズ 16	英単語調べと本文和訳
12		The Respiratory System(呼吸器系) 呼吸と吸息に関して 施術時の実践フレーズ 17, 18	英単語調べと本文和訳
13		The Respiratory System(呼吸器系) 肺胞の構造と働き 施術時の実践フレーズ 19, 20	英単語調べと本文和訳
14		医学英単語の複数形についての説明 The Respiratory System(呼吸器系) 復習問題	
15		前期期末試験対策 前期期末試験用練習問題プリント 解答と解説	
16		The Skeletal System(骨格系) 各骨の名称及び新出単語の発音と意味 The Skeletal System(骨格系) 骨組織の構造、骨の形状 施術時の実践フレーズ 21	英単語調べと本文和訳

17		The Skeletal System(骨格系) 骨格の種類等 骨の構造(長骨)の名称説明 復習問題 施術時の実践フレーズ 22	英単語調べと本文和訳
18		The Skeletal System(骨格系) 復習問題 関節とはどういうものか? 関節の種類 施術時の実践フレーズ 23, 24	英単語調べと本文和訳
19		The Skeletal System(骨格系) 可動関節について 関節の機能、関節の疾患 施術時の実践フレーズ 25	英単語調べと本文和訳
20		The Skeletal System(骨格系) 復習問題 The Muscular System(筋肉系) 各筋肉の名称及び新出単語の発音と意味(前半) 施術時の実践フレーズ 26	英単語調べ
21		The Muscular System(筋肉系) 各筋肉の名称及び新出単語の発音と意味(後半) The Muscular System(筋肉系) 筋肉に関する概略、筋肉の種類と特徴 施術時の実践フレーズ 27, 28	英単語調べと本文和訳
22		The Muscular System(筋肉系) 腱の特徴について 施術時の実践フレーズ 29, 30	英単語調べと本文和訳
23		The Muscular System(筋肉系) 靱帯の特徴について 施術時の実践フレーズ 31, 32	英単語調べと本文和訳
24		The Muscular System(筋肉系) 筋肉による体内、体外の運動について 施術時の実践フレーズ 33	英単語調べと本文和訳
25		The Muscular System(筋肉系) 復習問題 The Circulatory System(循環系) 血管の名称及び新出単語の発音と意味 施術時の実践フレーズ 34	英単語調べ
26		The Circulatory System(循環系) 心臓、動脈、静脈について 施術時の実践フレーズ 35	英単語調べと本文和訳
27		The Circulatory System(循環系) 血液循環と血液の成分について 施術時の実践フレーズ 36	英単語調べと本文和訳
28		医学英単語の構成についての説明 施術時の実践フレーズ 37, 38	
29		The Circulatory System(循環系) 復習問題 施術時の実践フレーズ 39, 40	
30		後期期末試験対策 後期期末試験用練習問題プリント 解答と解説	

その他の事項

医学英単語並びに医療に関する文章はやや複雑で発音等も難しいことも多いので、必ず辞書(電子辞書でもOK)を準備して下さい。

英文は英単語の発音を確認しながら必ず音読をして、内容の予習、復習はしっかりとして下さい。

前期、後期の期末試験は筆記試験となるので、教材の中での英問英答、英単語、実践フレーズで扱う英語表現等は英語を書く練習も日頃からして下さい。

授業形態がビデオ配信から従来の対面授業に変更等あれば、医療現場での簡単な英会話の練習も始める予定です。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	5 0	実施時間数	5 0
担当教員	金井 優也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業においては、医学の基礎となる解剖学のうち、「生殖器系・内分泌系・神経系・感覚器系」を重点的に学ぶ。本授業では、各臓器の構造を理解し、国家試験の四者択一問題に対応できる力を育成することを目的とする。また他科目と連携できることを目的とし、各臓器の正常構造が3次元で理解できることを目標とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 解剖学 第2版 医歯薬出版株式会社、2 0 0 6				

具体的な到達目標	
目標1	生殖器の構造を理解し説明することができる。
目標2	受精と発生の流れ、胎盤の構造を理解し説明することができる。
目標3	内分泌系の構造を理解し、ホルモンの作用を説明することができる。
目標4	神経系の構成を理解し、中枢神経(脳・脊髄)の構造を説明することができる。
目標5	末梢神経(脳神経・脊髄神経)の種類を理解し、各機能の説明をすることができる。
目標6	伝導路の流れを理解し説明することができる。
目標7	各感覚器の構造を理解し説明することができる。
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、第8章 神経系：神経系の構成と神経細胞と神経膠細胞の違いについて学ぶ。	
2		第8章 神経系：脊髄・延髄について学ぶ。	
3		第8章 神経系：橋・中脳・小脳について学ぶ。	
4		第8章 神経系：間脳・大脳(皮質)について学ぶⅠ。	
5		第8章 神経系：大脳(皮質)について学ぶⅡ。	
6		第8章 神経系：大脳(基底膜・白質・髄膜)について学ぶⅢ。	
7		第8章 神経系：大脳(脳室・脳脊髄液・脳の血管)について学ぶⅣ。	
8		第8章 神経系：伝導路について学ぶⅠ。	
9		第8章 神経系：伝導路について学ぶⅡ。脳神経(概要)について学ぶⅠ。	
10		第8章 神経系：脳神経(各論)について学ぶⅡ。	
11		第8章 神経系：脳神経(各論)について学ぶⅢ。	
12		第8章 神経系：脊髄神経(概要)について学ぶⅠ。自律神経について学ぶⅠ	
13		前期定期試験までの範囲の復習。	
14		第8章 神経系 第10章 運動器系：脊髄神経(頸神経)について学ぶⅡ	
15		第8章 神経系 第10章 運動器系：脊髄神経(胸・腰・仙骨神経)について学ぶⅢ	
16		第8章 神経系 第10章 運動器系：脊髄神経(仙骨神経)について学ぶⅣ。 第9章 感覚器系：視覚器について学ぶⅠ。	
17		第9章 感覚器系：視覚器について学ぶⅡ。	
18		第9章 感覚器系：平衡感覚器について学ぶⅠ。	
19		第9章 感覚器系：平衡感覚器について学ぶⅡ。味覚・嗅覚器について学ぶ。 第7章 内分泌系：内分泌系(概要と下垂体)について学ぶⅠ。	
20		第7章 内分泌系：内分泌系(甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・性腺)について学ぶⅡ。	
21		第6章 生殖器系：男性生殖器について学ぶⅠ。	
22		第6章 生殖器系：男性生殖器について学ぶⅡ・女性生殖器について学ぶⅠ。	
23		第6章 生殖器系：女性生殖器について学ぶⅡ・受精と発生について学ぶⅠ。	
24		第6章 生殖器系：受精と発生について学ぶⅡ。	
25		後期定期試験までの範囲の復習。	
その他の事項			
担当者メールアドレス：y-kanai@butsugen.or.jp			

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	50	実施時間数	50
担当教員	奥村 清和				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	所定の教科書を使用してその章の順にしたがって授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらってそれに対して説明、解釈を加えていきます。また、必要に応じて自作のスライドをみてもらいながらの説明もあります。基礎医学である生理学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できます。				
教 科 書	生理学 第3版 医歯薬出版				

具体的な到達目標	
目標 1	人体各部の機能を習得する。
目標 2	習得した各系統をつなぎ合わせて、より理解を深める。
目標 3	他の科目や臨床に応用できるようにする。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第 11 章 筋、骨格筋の構造と働き	
2		筋の収縮の仕組み	
3		筋のエネルギー供給の仕組み	
4		第 12 章 運動、骨格筋の神経支配	
5		運動の調節、脊髄レベルでの調節	
6		脊髄レベルでの調節	
7		脳幹による調節	
8		小脳・大脳基底核・大脳皮質による調節	
9		錐体路系と錐体外路系、発声と言語	
10		第 13 章 感覚、感覚の一般的性質、体性感覚	
11		体性感覚、深部感覚、内臓感覚	
12		痛覚	
13		様々な痛みの治療法	
14		味覚、嗅覚	
15		聴覚、平衡感覚	
16		前庭器官と伝導路、視覚、視覚の性質	
17		視覚の性質	
18		視覚の受容器と伝導路	
19		第 14 章 生体の防御機構	
20		白血球の働き	
21		リンパ系器官、免疫反応	
22		第 15 章 身体活動の協調、生体の適応	
23		恒常性維持	
24		恒常性維持、バイオリズム	
25		復習	
その他の事項			

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単位	必要時間数	50	実施時間数	50
担当教員	西田 秀明				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	1 年生で学習した人体の構造・機能に関する知識を基礎として、人体の疾病における原因や病態などについて教授し、基礎および臨床的な知識を身に付ける。				
教 科 書	滝澤登一郎・畠山茂、病理学概論、第 2 版 医歯薬出版株式会社、2004 年				

具体的な到達目標	
目標 1	病態の成り立ちを理解し、説明できる。
目標 2	病態の経過を理解し、説明できる。
目標 3	病態の転帰を理解し、説明できる。
目標 4	病態の症状の機序を理解し、説明できる。
目標 5	国家試験レベルの問題を解くことができる。
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	☐	無	☒
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		科目ガイダンス、病理学と病理診断の役割	
2		病理診断とは何か	
3		細胞傷害①-内因と外因、医原病、変性とは何か-	
4		細胞傷害②-アポトーシス、細胞の死、老化、細胞傷害-	
5		細胞傷害③-栄養障害、環境への適応-	
6		先天異常①-先天異常の概要、染色体異常-	
7		先天異常②-遺伝性疾患、先天奇形-	
8		循環障害①-血栓、塞栓、梗塞-	
9		循環障害②-出血、うっ血、浮腫、ショック-	
10		炎症①-プロセスと特徴、検査-	
11		炎症②-急性と慢性、創傷治癒、異物処理-	
12		免疫異常とアレルギー反応①-免疫の概要と細胞の働き-	
13		免疫異常とアレルギー反応②-アレルギー反応-	
14		1～13 回の復習	
15		免疫異常とアレルギー反応③-臓器移植と拒絶反応-	
16		免疫異常とアレルギー反応④-免疫不全症、自己免疫疾患-	
17		免疫異常とアレルギー反応のまとめ	
18		感染症①-感染症の概要、病原体の種類と反応-	
19		感染症②-病原性と増殖速度、感染経路-	
20		感染症③-内因性と外因性、感染防御-	
21		腫瘍①-良性腫瘍と悪性腫瘍-	
22		腫瘍②-悪性腫瘍-	
23		腫瘍③-腫瘍の影響と診断、治療-	
24		15～23 回の復習	
25		病理学全体の復習	
その他の事項			
担当者メールアドレス : h_nishida@butsugen.or.jp			

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	50	実施時間数	50
担当教員	村上 朱保				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	はり師、きゅう師、あんまマッサージ指圧師は、臨床治療を安全かつ効果的に実践する必要がある、西洋医学においても適切な治療法を理解し、主たる症候に精通しておくことが必要とされる。誤った判断に基づいた医療を行えば効果が無いばかりか、かえって有害事象が発生する可能性も考えられる。そのため本授業でははり師、きゅう師、あんまマッサージ指圧師の患者との医療面接とその技法、診察法、各種検査、症候について学習する。				
教 科 書					

具体的な到達目標	
目標 1	西洋医学の診察の意義と内容、および用語を説明することができる。
目標 2	西洋医学の医療面接、視診、触診、打診、聴診、神経系の診察についてその意義と方法を説明することができる。
目標 3	生命徴候について説明することができ、その結果の示す病態、および可能性のある疾患を判別することができる。
目標 4	全身および身体局所の視診、触診、打診、聴診の結果の示す病態、および可能性のある疾患を判別することができる。
目標 5	神経系の診察の意義、内容とその方法を説明することができ、その結果の示す病態および可能性のある疾患を判別できる。
目標 6	運動機能検査の意義、内容とその方法を説明することができ、その結果の示す病態および可能性のある疾患を判別できる。
目標 7	救急時の診察方法、および救急処置について説明することができる。
目標 8	画像診断を含む臨床検査の意義、内容を説明することができ、その結果の示す病態、可能性のある疾患を判別できる。
目標 9	主な症状の病態生理、分類、原因疾患、検査と、鑑別診断、治療について説明することができる。
目標 10	治療の意義と種類、内容について説明することができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%		100%		
平常点	0%	算出方法	0%	算出方法	
出席点	0%	算出方法	0%	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	臨床検査技師、はり師きゅう師の免許を有する。臨床検査技師として病院で10年9か月、鍼灸師として9年間の臨床経験あり。また中国の大学病院において中医師インターンとして5年間の実務経験あり。教員経験6年。

**実務経験
をいかした
教育内容**

西洋医学における主な症状や診察法、または臨床検査について、その内容や意義、鑑別方法を説明する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション。第1章、第2章。医療面接の意義、方法、カルテの記録内容と意義	
2		第2章各種診察法の意義と注意点。第3章生命徴候の診察。体温	
3		第3章生命徴候の診察。脈拍、血圧、呼吸。第4章全身の診察。顔貌、顔色の異常所見	
4		第4章全身の診察。精神状態～栄養状態の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
5		第4章全身の診察。姿勢と体位～皮膚・粘膜・皮下組織の異常所見の種類、意義、疾患との関係	
6		第4章 皮膚粘膜皮下組織～第5章局所診察 頭部・顔面の異常所見の種類、意義、疾患との関係	
7		第5章局所の診察。眼～口腔の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
8		第5章局所の診察。口腔～心臓の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
9		第5章局所の診察。腹部の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
10		第5章 背部～第6章 神経系の診察 深部感覚検査の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
11		第6章神経系の診察。複合感覚～深部反射の種類や検査方法、病態や疾患との関係	
12		第6章自律神経反射～第7章運動機能検査 筋肉の異常の種類や検査方法、病態や疾患との関係	
13		第7章運動機能検査。筋肉の異常～日常生活動作の種類や障害部位、病態や疾患との関係	
14		第7章運動機能検査。各種徒手検査法の方法、病態、疾患との関係	
15		第7章運動機能検査。各種徒手検査法の方法、病態、疾患との関係	
16		第7章運動機能検査。各種徒手検査法の方法、病態、疾患との関係、第8章救急時の診察	
17		第9章臨床検査法。尿検査、便検査の種類、異常所見と意義、疾患との関係	
18		第9章臨床検査法。血液検査、一般検査の種類、異常所見と意義、疾患との関係	
19		第9章臨床検査法。生化学・生理学検査、画像診断の種類、異常所見と病態、疾患との関係	
20		第9章臨床検査法。生化学・生理学検査、画像診断の種類、異常所見と病態、疾患との関係	
21		検査基準値。第10章主な症状の診察法。頭痛～咳・痰の分類と病態生理、鑑別、疾患との関係	
22		第10章主な症状の診察法。息切れ～不正性器出血の分類と病態生理、鑑別、疾患との関係	
23		第10章主な症状の診察法。排尿障害～ショックの分類と病態生理、鑑別、疾患との関係	
24		第10章主な症状の診察法。出血傾向～意識障害の分類と病態生理、鑑別、疾患との関係	
25		第11章治療学、第12章治療法の種類と意義、評価法の種類	

その他の事項

専 門 分 野

(東洋医学概論Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	4 5	実施時間数	4 6
担当教員	上田 恵介				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学の知識を臨床実習及び、あま指実技に活用するため、臨床医学各論、総論に並行して“疾病を東洋医学的に生理、病理の観点でどうとらえるか”、双方の視点で診る必要性を学習する。また、1 年次に学習した内容を理解し、目の前の病態を東洋医学的にどう考えることができるか思考する力を身につける。				
教 科 書	教科書検討小委員会著、新版 東洋医学概論				

具体的な到達目標	
目標 1	東洋医学の基礎理論について説明ができる。
目標 2	陰陽学説、五行学説、五行の性質を説明できる。色体表を書くことができる。
目標 3	生体物質について理解し説明できる。
目標 4	臓腑の特性、生理、病理について説明できる。
目標 5	奇経八脈の作用、役割、病態について説明できる。
目標 6	四診を用いて判断する。舌診、脈診の意味を理解し説明できる。
目標 7	問診と病態を関連させることができる。
目標 8	弁証方法を列挙できる。弁証方法の違いを説明できる。
目標 9	気血津液について原因、症状を説明できる。
目標 10	十二経絡病証、是動病、所生病から経脈の異常を判断できる。
目標 11	臓腑病証の区分を理解し説明できる。
目標 12	複合病証が理解できる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	80 点		
平常点	0 点	算出方法	算出方法
出席点	0 点	算出方法	算出方法
その他	20 点	算出方法	夏季課題 算出方法
試験日			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、動画授業ガイダンス、東洋医学の仕組み	
2		望診・聞診：舌診、五行を用いた診断法、臨床上の扱い、舌診（形態、病態）	
3		問診：臨床に即した問診方法、東洋医学の所見から病態	
4		問診：臨床に即した問診方法、西洋医学の所見から病態	
5		切診：脈状診、六部定位脈診、三部九候診、人迎脈口診	
6		切診：『難経』の腹診、『傷寒論』の腹診、募穴診、夢分流腹診	
7		陰陽学説、五行学説、五行の性質、色体表	
8		気血津液について原因、症状	
9		蔵象（肝・胆・心・心包・小腸・脾・胃）	
10		蔵象（肺・大腸・腎・膀胱・三焦・奇恒の腑）	
11		病因病機	
12		弁証方法の種類、八綱弁証	
13		臓腑病証（肝・胆・心・小腸）	
14		臓腑病証（脾・胃・肺・大腸）	
15		十二経絡病証１、（是動病、所生病）	
		前期期末試験	
16		十二経絡病証２	
17		奇経八脈の流れ、作用、病態	
18		六淫弁証・六経弁証、三陰三陽病	
19		経脈・絡脈・皮部・経筋	
20		複合病証、多臓腑にまたがる病証の発生と原因、症状１	
21		複合病証、多臓腑にまたがる病証の発生と原因、症状２	
22		複合病証、多臓腑にまたがる病証の発生と原因、症状３	
23		前期まとめ	
		前期期末試験	

その他の事項

授業の概要 毎時間教科書及び配布資料を用いた講義

受講するうえでの決まり事

スマートフォンや携帯電話について：講義中の使用・撮影は不可。携帯電話等はマナーモードに設定のこと。

配布資料：配布資料は、教科書と同様、毎時間持参すること。紛失した場合追加での印刷は行わない。

その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合がある。

成績評価 前期：試験点数８０点満点 ６割に満たない場合再試験とする。 夏季課題２０点

「東洋医学概論Ⅱは、患者さんの訴える病態を東洋医学的に考え、患者さんへ説明する為の力を付ける機会として位置付けています。実際の病態を聞き身体にどのような変化が起こっているかを仮定し、治療方法を導き出す力を身に付けることを目標とします。苦手だと感じている方も、この機会に東洋医学が身近なものだと認識できるような授業を展開します。」

質問などがある場合、アンケートまたは、メールに送ってください。ueda@butsugen.or.jp

専 門 分 野

(臨床診断学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	9 0	実施時間数	9 2
担当教員	松尾 卓 / 下宮 啓佑 / 佐藤 陽子				
授業形態	実 習	教 室	第 1 実技室		
授業目的	あん摩マッサージ指圧師が治療を行う際には、患者の状態を正確に把握し、その状態に応じて適切な治療方針を検討し、実践しなければならない。よって患者の状態を正確に把握することは、効果的な治療に繋がる。また、状態によってはあん摩マッサージ指圧師の診察や治療よりも、病院等への紹介が優先されることもある。そのため、本授業では患者の状態を把握するための東洋医学的・西洋医学的診察方法を修得し、得られた情報から患者の疾病の状態を推測することができるようになることを目的とする。				
教 科 書	授業のコマごとに指定する。また、担当者によってはプリントの配布を行う。				

具体的な到達目標	
目標 1	望診から東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標 2	問診から東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標 3	切診から東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標 4	東洋医学的診察から得た情報を基に証を立てることができる。
目標 5	徒手検査の所見から損傷組織、疾患の推測ができる。
目標 6	MMT、ROM、腱反射、知覚検査の所見を正確に取ることができる。
目標 7	正常な画像と比較し、画像上異常なところを見つけることができる。
目標 8	その他診察に必要な検査法を体験する。
目標 9	検査所見から、患者の病態を推測することができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	7 0 %		7 0 %		
平常点	1 5 %	算出方法	その他の事項に記載	1 5 %	算出方法
出席点	1 5 %	算出方法	1 回の欠課で 3 点減点	1 5 %	算出方法
その他		算出方法			算出方法
試験日					

★追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	〔松尾〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 9 年間の実務経験あり。 〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて 4 年間の経験あり。他校附属治療院にて 6 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 3 年間の実務経験あり。 〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において

	7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で11年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	東洋医学の現場や西洋医学の現場における多様な実務経験から、あん摩マッサージ指圧師の臨床上に必要な診察技術を教授することができる。あん摩マッサージ指圧師の臨床上に必要な診察技術の取得、また得られた検査結果から東洋医学的および西洋医学的な患者の病態の把握ができるよう教育する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		授業ガイダンス、脈診（脈差診・脈状診）の所見	佐藤
2		脈診（脈差診・脈状診）の方法の習得	佐藤
3		舌診の方法・所見の習得	佐藤
4		全体望診、顔面診の方法、爪甲診の方法	佐藤
5		基本的問診事項（寒熱・飲食・睡眠・二便・情志・生活環境）	佐藤
6		その他の問診事項（各部位の症状・汗・疼痛・女性・既往歴・家族歴）	佐藤
7		傷寒論系腹診・難経十六難腹診の方法・所見の習得	佐藤
8		募穴診の方法および所見	佐藤
9		原穴診・要穴切穴の方法および所見	佐藤
10		腹診の方法および所見	佐藤
11		上肢経脈の切経の方法および所見	佐藤
12		下肢経脈の切経の方法および所見	佐藤
13		背候診の方法、所見	佐藤
14		脈診（脈差診・脈状診）の復習と配穴1	佐藤
15		脈診（脈差診・脈状診）の復習と配穴2	佐藤
16		傷寒論系腹診・難経十六難腹診の復習と配穴	佐藤
17		切経の復習	佐藤
18		背候診の復習	佐藤
19		四診法の復習	佐藤
20		前期試験	佐藤
21		試験のフィードバック、復習	佐藤
22		四診法からの証立てと選穴1	佐藤
23		四診法からの証立てと選穴2	佐藤
24		血圧測定（触診法と聴診法の理解）	
25		徒手検査の説明	
26		徒手検査（頸部神経根・胸郭出口・肩関節周囲の確認）	
27		徒手検査（上腕二頭筋部、肘関節付近筋・腱損傷の確認）	
28		徒手検査（腰部神経根での神経の圧迫の確認）	
29		徒手検査（股関節、仙腸関節付近の筋の障害、神経の圧迫の有無の確認）	
30		徒手検査（膝関節部の靱帯、半月板損傷、足関節周囲の腱の損傷の有無の確認）	

31		徒手検査の復習
32		知覚検査、腱反射（上腕部、膝、足関節部）
33		R O Mの説明
34		R O M（肩関節、肘関節、手関節）
35		R O M（股関節、膝関節、足関節）
36		R O M（頸部、腰部）
37		R O Mの復習
38		脳神経検査、病的反射、四肢長周径
39		小脳疾患の検査・髄膜刺激症状
40		M M Tの説明
41		M M T（上下肢の筋）
42		M M T（体幹の筋）
43		全検査の復習
44		後期試験
45		後期試験
46		総合復習

その他の事項

【試験について】

前期試験、後期試験ともに試験の合格を以て試験成績の70%に換算します。不合格の場合は0点となります。

なお、試験の補助として授業担当外の教員が入ることがあります。

【平常点について】

実技道具や実習着忘れ 1回につき2点減点

無断欠席・遅刻 1回につき2点減点

授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1回につき5点減点

【注意事項】

実習着を忘れた場合、授業の見学については許可するが、実技への参加は認めません。（欠席扱いとなります。）

専 門 分 野

(臨床実習Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	180	実施時間数	180
担当教員	川口/松尾/上田/臼井/佐藤 /田中				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。				
	「東洋医学的」「現代医学的」両方の側面から情報収集を行い、かつ東洋医学的病態把握ができるようになる。				
	授業で学んだ四診、検査法を活用し、患者の病態を把握できるようになる。				
教 科 書	教員の治療方針を理解し、安全かつ基本に基づいた手技を適切な刺激量で行えるようになる。				
	臨床実習の手引き				

具体的な到達目標	
目標 1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。
目標 2	患者に対して挨拶、自己紹介、言葉遣い、施術内容の旨を伝え、言葉かけが適切に行える。
目標 3	体位変換、無理のない体位の指示、衣服の扱いおよびベッド操作の旨を伝え安全に操作が行える。
目標 4	あん摩、マッサージにおいて一連の流れを安全に行うことができる。
目標 5	あん摩、マッサージにおいて基本手技を適切な刺激量で行えるようにする。
目標 8	医療面接、四診、検査法、病態把握、治療方針、施術、評価までの記録をカルテに記載することができる

評価と試験					
前 期			後 期		
平常点	算出方法	後期に準ずる	15 点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	算出方法	後期に準ずる	40 点	算出方法	その他の事項に記載
その他	算出方法	後期のみ	45 点	算出方法	その他の事項に記載
試験日	後期試験 臨床試験(あん摩)				

※追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔川口〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。自宅で開業。 〔臼井〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。 脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。全日本鍼灸学会認定鍼灸師、認定訪問マッサージ師、介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 2 年間の実務経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸アマ指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 5 年、本校附属治療所で 7 年間の実務経験あり。 〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸アマ指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 9 年間の実務経験あり。 〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において 7 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 11 年間の実務経験あり。

	〔田中〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成学科附属治療院で２年、あはき整骨院で２年間、出張開業で１年の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	（あん摩マッサージ指圧） あん摩マッサージ指圧における基本手技を必要に応じて施術を使い分けることができるようにする。

授業の内容		
回数	内容	備考
１～	前期は医療面接、検査、病態把握、カルテの記載、施術を中心に学ぶ	
９０	後期は来所患者に対して、教員管理、指示のもと、施術補助または施術をおこなう。	

その他の事項
＜平常点＞ ・日々の臨床実習に臨む姿勢（服装以外の身だしなみ、忘れ物など） ・「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日の場合は事前の電話連絡） ・令和４年７月～９月の欠課、令和５年１月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課 ＜出席点＞ ・3/4以上の出席をもって４０点とする。出席が3/4に満たない場合は加点なし。 ＜試験成績＞ ・臨床試験内容 （あん摩） 試験成績が合格の場合４５点が加点される。不合格の場合加点なし。 ＜その他＞ ・フロント（一般患者）施術に入るにあたりあん摩の技術レベルを授業内で確認をする場合がある。

専 門 分 野

(あん摩実技Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	30	実施時間数	32
担当教員	松浦 英世				
授業形態	授業形態を選択	教 室	実施教室を選択		
授業目的	これまでに習った基礎医学やあん摩・マッサージ・指圧基本術式を応用し、各疾病を学び臨床に応用した治療法を学習する。 卒業後の開業した際に症状に合った治療法を学習する。				
教 科 書	スポーツマッサージ、テキスト配布				

具体的な到達目標	
目標 1	体幹部の体表観察、触診を行い、骨・筋を理解することができる。
目標 2	体幹部の骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる。
目標 3	主に腰殿部のスポーツ障害の発症機序を理解し適切なあん摩・手技治療を行うことができる。
目標 4	臨床実習に向けて全身施術ができるようになる。
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	欠席-2 点、遅刻-1 点	算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼師・灸師・按摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸治療院にて 40 数年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床の現場において遭遇するあらゆる主訴に対する基本的な治療の方法を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		治療の概要の説明	
2		肩背部按摩実技（側臥位）	
3		頸部按摩実技（側臥位）	
4		上肢按摩実技（側臥位）	
5		頸部・頸椎②⑤ 頸部の骨・筋について説明。局所穴と遠位穴に対する手技療法。	
6		頸肩部②⑥ 胸郭出口症候群について説明。局所穴と遠位穴に対する手技療法。	
7		頸肩部②⑥ 肩背部の筋について説明。局所穴と遠位穴に対する手技療法。	
8		肩背・頸部按摩実技（坐位）	
9		腰部②③ 慢性腰痛について説明。局所穴と遠位穴に対する手技療法。	
10		腰部②③ 急性腰痛について説明。局所穴と遠位穴に対する手技療法。	
11		殿部②⑦ 骨盤と筋について説明。局所穴と遠位穴に対する手技療法。	
12		腰仙殿部按摩実技（側臥位）	
13		下肢後面按摩実技（側臥位）	
14		下肢前面按摩実技（背臥位）	
15		前期試験	
16		あん摩実技復習	
その他の事項			
各疾患に対し、資料に基づいて実技を学び、その後学生同士ペアーとなり実技を行う。			

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	松尾 卓、佐藤 陽子、上田 恵介				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	1 年時同様に基本操作法（伏臥位、側臥位、仰臥位、座位）の指導を行う。特に安全面に注意しながら、効率的な身体 の使い方（体傾荷重）に主眼を置いた指導を行う。指圧は治療に適した療法である反面、必ず危険性を伴う。したがっ て安全に操作が行えるようになることを第一とする。その上でより治療的に行えるようになるための基礎（基本）を反 復練習する習慣を身に付ける。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	指圧に関する基礎知識を説明できる。
目標 2	安全に操作する方法を説明できる。
目標 3	基本操作を手順通り行える。
目標 4	基本操作を安全に行える。
目標 5	伏臥位・側臥位・仰臥位・座位についての実技内容を安全に行うことができる。
目標 6	伏臥位・側臥位・仰臥位・座位についての実技内容を手順通り行うことができる。
目標 7	各人にとって体傾荷重による最大強度の加圧ができるようになる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、 鍼灸あま指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 5 年、本校附属治療所で 7 年間の実務経験あり。
実務経験をいかした 教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション・指圧伏臥位（前半）基本操作 総復習・安全確認	上田①
2		指圧伏臥位（後半）基本操作 総復習	上田②
3		伏臥位の通し練習×2 セット	上田③
4		伏臥位の通し練習×2 セット	上田④

5		伏臥位（後半）	肩上部操作、上肢操作、肩甲骨内側縁	〔理論〕 押圧の分析	上田⑤
6		〃	一・二・三側線両母指圧、腰側線、仙骨孔両母指圧	〔理論〕 圧法定義	上田⑥
7		〃	下肢操作	〔理論〕 指掌の使い方	上田⑦
8		〃	床での操作（第2実技室）		上田⑧
9		〃	伏臥位の基本操作総復習		上田⑨
10		〃	伏臥位の基本操作まとめ		上田⑩
11		側臥位（1）	上肢操作（上腕の握り圧、前腕の母指圧、手の操作、上肢の引伸圧）		松尾①
12		〃	頸部操作（3点母指圧、頸側の母指指紋部圧、頸側の掌圧）		松尾②
13		〃	背部操作、腰部捻転（運動法）		松尾③
14		前期末実技試験	試験対象者以外は伏臥位の反復練習		松尾・上田・佐藤
15		前期末実技試験	試験対象者以外は伏臥位の反復練習		松尾・上田・佐藤
16		側臥位（2）	肩関節周囲操作（運動法、回転法）		松尾④
17		〃	〃	（肩甲骨引上げ、腋窩押圧、肩甲骨内側縁母指圧）	松尾⑤
18		〃	〃	（肩上部母指圧）	佐藤①
19		〃	背部操作（二側線外両母指圧、腸骨上縁3点圧）、臀部操作		佐藤②
20		〃	下肢操作、腰部捻転（矯正法）		佐藤③
21		〃	側臥位の総復習①		佐藤④
22		〃	側臥位の総復習②		佐藤⑤
23		〃	床での操作 伏臥位・側臥位（第2実技室）		佐藤⑥
24		仰臥位	腹部操作		佐藤⑦
25		〃	腹部操作		佐藤⑧
26		〃	下肢操作		佐藤⑨
27		坐 位	頸部操作・胸郭拡張法・手刀	〔理論〕 指圧操作の大別	佐藤⑩
28		指圧総復習（伏臥位・側臥位・仰臥位・坐位）			松尾・佐藤・上田
29		後期末実技試験	試験対象者以外は伏臥位・側臥位・坐位の反復練習		松尾・佐藤・上田
30		後期末実技試験	試験対象者以外は伏臥位・側臥位・坐位の反復練習		松尾・佐藤・上田

その他の事項

＜試験評価＞ 100%（クラスメイトまたは教員に対する施術を評価する）

○実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○身だしなみ：（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

専 門 分 野

(課題研究) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	2 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	20	実施時間数	20
担当教員	西田 秀明				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	「患者さんに対し最新の知識に基づいたより良い医療を提供できる医療従事者になるため」に、論文や文献の検索方法や読み方、記載されている内容の真偽の判断の仕方について教授する。 あわせて、最新論文だけでなく『黄帝内経』や『難経』などに代表される古典文献の検索方法についても教授する。				
教 科 書					

具体的な到達目標	
目標 1	論文とは何かを説明することができる。
目標 2	論文の検索方法を修得し、説明することができる。
目標 3	古典文献の検索方法を修得し、理解することができる。
目標 4	論文を読み、どのような内容かを理解することができる。
目標 5	研究デザインと統計学について理解することができる。
目標 6	論文の内容を自分の言葉で説明することができる。
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	60% (レポート提出)		—		
平常点	—	算出方法	—	算出方法	—
出席点	40%	算出方法	欠席毎に10点減点	算出方法	—
その他	—	算出方法	—	算出方法	—
試験日	—				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。全日本鍼灸学会認定鍼灸師。5年間大学附属鍼灸センターにて治療経験あり。大学附属病院外科にて1年の研修経験あり。教員として学校附属治療院で3年、訪問出張施術で1年の臨床経験あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。

**実務経験
をいかした
教育内容**

臨床経験や研究・学会活動における国際的な動向を含めた最新の知見を講義のベースとし、現在の業界において必要な論文検索及び研究に関する知識を教授する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、論文とは何か	
2		何故論文を読む必要があるのか	
3		論文の検索方法と読み方	
4		古典文献の検索方法と読み方	
5		研究と論文・論文の真偽	
6		研究のデザイン方法	課題提示
7		研究デザインの型	
8		研究の質を高める	
9		統計学入門	
10		考察とは何か	

その他の事項

【成績評価のその他について】

・本科目は提示された課題についてまとめ提出することで最大60点の加点となります（提出しないと加点はありません）。

課題内容及び提出方法等は別途指示いたします。

教員連絡先：h_nishida@butsugen.or.jp